

FormPat 4

データベース参照定義ファイルガイド

Digital Assist Corporation

2014/02/28



Copyright(C) 2014 Digital Assist Corporation. All rights reserved.

目次

目次	2
はじめに	3
概要	4
データベース参照定義ファイルのヘッダ記述	4
データベース参照定義ファイルのワークテーブル作成記述	4
データベース参照定義ファイルのデータ参照記述	5
データベース参照定義ファイルのデータ消去記述	7
留意点	8

はじめに

本書では、FormPat 4（以下、FormPat）のデータベース参照機能で利用できるデータベース参照定義ファイルの設定方法を説明します。

データベース参照定義ファイルを利用することで、フォーム入力中に他システムのデータベースや FormPat のデータベースを参照することが可能になります。

例えば、コード欄の値でデータベースを参照し、データベースに格納されている情報を名称欄に表示するような利用が行えます。

本書は、FormPat Ver.4.0.0.0 以降を対象としています。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標です。

概要

データベース参照定義ファイルは、フォーム入力中にデータベースを参照し、その結果をフォーム内の項目に貼り付けるための一連の処理を記述したファイルです。

データベース参照定義ファイルは、FormPat Designer 4（以下、Designer）で作成したフォーム定義ファイルごとに作成可能です。

また、データベース参照定義ファイルのファイル名は、Designer で作成したフォーム定義ファイルのファイル名（拡張子を除く）と同じ名前の CSV 形式ファイル(拡張子.csv)です。

データベース参照定義ファイルはヘッダ記述を必ず先頭に記述しますが、ワークテーブル作成記述、データ参照記述、データ消去記述の記述順および記述回数は任意です。ただし、記述順に処理を実行しますので実行順を考慮した記述を行ってください。

データベース参照定義ファイルのヘッダ記述

フォーム名, 予備1, 予備2

フォーム名 は データベース参照定義ファイルのファイル名をコメントとして記述します。システムからは参照していません。

予備1 は現在未使用です。

予備2 は現在未使用です。

「ワークテーブル作成記述例」

りん議書,,

データベース参照定義ファイルのワークテーブル作成記述

ワークテーブル作成記述は FormPat のデータベースを参照する場合に必要です。

FormPat のデータベースから任意形式のワークテーブルを作成し、ワークテーブルから SQL 文でデータ参照することになります。

外部システムのデータベースを参照する場合は、ワークテーブル作成記述は必要ありません。

DSN 名, 検索条件,, 0, ワークテーブル作成関数

DSN 名 は FormPat Designer で DSN 定義した項目名称を記述します。

「FormPat Designer の DSN 定義方法」

1. 項目を追加します。任意の位置に配置してください。
2. プロパティの[項目名称]に任意の DSN 名 を定義します。
3. プロパティの[項目属性]にテキストを定義します。
4. プロパティの[固定リテラル]に Provider=で始まる DB 接続文字列を定義します。
5. プロパティの[可視表示]の[入力]、[印刷]ともチェックを外します。

6. プロパティの[検索対象]のチェックを外します。
7. その他の項目は既定値とします。

検索条件 はワークテーブル作成関数の WHERE 句で使用するフォーム項目名称とワークテーブル項目名称の関係を「=」を使って記述します。

また、フォーム項目名称の前に項目属性に従って項目属性記号を付加する必要があります。
項目属性記号には、テキストは @ 、ラベルは # 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは * 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。
複数のフォーム項目名称とワークテーブル項目名称の関係を設定するときは : で連結します。

0 は必ず 0 を記述します。

ワークテーブル作成関数 はワークテーブル構造、データ内容を記述します。定義内容は以下の通りです。

FP_DataCreate(**フォーム ID**, **抽出項目**, **抽出条件**)

フォーム ID は FormPat のフォーム設定画面で登録したフォーム ID を記述します。ワークテーブルはフォーム ID の前に#を付加した名称になります。(#フォーム ID)

抽出項目 はワークテーブルに格納するフォーム項目名称を記述します。

また、フォーム項目名称の前にデータ形式に従ってデータ形式記号を付加する必要があります。

データ形式記号には、文字属性は #n- 、数値属性は #i- 、日付属性は #d- を設定します。
#n- は省略可能です。

複数のフォーム項目名称を設定するときは : で連結します。

抽出条件 は SQL 文の WHERE 句で始まる抽出条件を記述します。

抽出条件では **検索条件** で記述したフォーム項目名称も指定可能です。その場合、データ形式が文字属性ならフォーム項目名称を N'[]'、日付属性ならフォーム項目名称を '[]'、数値属性ならフォーム項目名称を [] で囲みます。また、[] 内には項目属性記号は必要ありません。

その他に、数値定数、文字定数については任意に記述可能です。

「ワークテーブル作成記述例」

DNS1,@入社年度=入社年度:\$都道府県=都道府県,,0,FP_DataCreate(Employee,#i-会社コード:
#i-社員番号:#n-社員名:#n-部署,WHERE 入社年度=[入社年度] AND 都道府県=N'[都道府県]')

※実際は一行で記述してください。

データベース参照定義ファイルのデータ参照記述

DNS 名, **検索条件**, **検索結果**, **行位置**, **SQL 文**

DNS 名 は FormPat Designer で DNS 定義した項目名称を記述します。

上記、「FormPat Designer の DSN 定義方法」を参照してください。

検索条件 は SQL 文の WHERE 句で使用するフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を「=」を使って記述します。

また、フォーム項目名称の前に項目属性に従って項目属性記号を付加する必要があります。

項目属性記号には、テキストは @ 、ラベルは # 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは * 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。

複数のフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を設定するときは : で連結します。

検索結果 はデータベース参照結果をフォームへ反映するため、フォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を「=」を使って記述します。

また、フォーム項目名称の前に項目属性に従って項目属性記号を付加する必要があります。

項目属性記号には、テキストは @ 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは * 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。

複数のフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を設定するときは : で連結します。

ただし、複数の関係を連結する場合は SQL 文の SELECT 句の記述順と同じ並びにする必要があります。

行位置 は検索結果として複数行取得した場合、何行目を取得するか記述します。

通常は 0 を記述します。

SQL 文 はデータベース検索の SQL 文を記述します。

FROM 句でワークテーブル作成記述のテーブルを参照する場合、フォーム ID の前に#を付加します。(#フォーム ID)

WHERE 句では **抽出条件** で記述したフォーム項目名称も指定可能です。その場合、データ形式が文字属性ならフォーム項目名称を '[' (ただしデータベースの項目が Unicode なら N '[')、日付属性ならフォーム項目名称を '[' で、数値属性ならフォーム項目名称を '[' で囲みます。また、[] 内には項目属性記号は必要ありません。

その他に、数値定数、文字定数については任意に記述可能です。

「他システムのデータ参照記述例」

```
DNS1,@会社コード=CompanyCode:$部署名=Section,@社員番号=EmployeeCode:@社員名=EmployeeName:$部署=Section,0, SELECT EmployeeCode, EmployeeName, Section FROM TBL_Employee WHERE CompanyCode = [会社コード] AND Section = '[部署名]'
```

※実際は一行で記述してください。

「ワークテーブル (FormPat のデータベース) のデータ参照記述例」

```
DNS1,@会社コード=会社コード:@社員番号=社員番号,@社員名=社員名:$部署=部署,0, SELECT 社員名, 部署 FROM #Employee WHERE 会社コード = [会社コード] AND 社員番号=
```

[社員番号]

※実際は一行で記述してください。

データベース参照定義ファイルのデータ消去記述

データベースからの参照が完了しているフォーム項目の内容を消去したい場合があります。例えば、データベース参照条件の項目の値を変更して再度データベース参照を実行した場合、該当する条件のデータが見当たらなかったときに以前の参照結果がフォーム項目に残ってしまいます。これを回避するにはデータ消去記述を記述してください。

DNS 名、**フォーム項目名称=blank,0,SELECT "**

DNS 名 は FormPat Designer で DNS 定義した項目名称を記述します。

上記、「FormPat Designer の DSN 定義方法」を参照してください。

フォーム項目名称=blank は消去するフォーム項目名称に=blank を付加して記述します。

フォーム項目名称 にはフォームの項目属性に従って項目属性記号を先頭に付加する必要があります。

項目属性記号には、テキストは @ 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは * 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。

複数のフォーム項目名称を設定するときは : で連結します。

=blank は固定文字として=blank と記述します。

0 は必ず 0 を記述します。

SELECT " は消去するフォーム項目名称がひとつの場合、SELECT "、

複数の場合その項目数を SELECT に続けて " を , で連結して記述します。SELECT ", ", " …

「フォーム項目の消去記述例」

DNS1,,@氏名=blank:\$部署=blank:@役職=blank,0,SELECT " ", "

データベース参照定義ファイルの作成手順

1. [メモ帳]等のテキストエディタでデータベース参照定義ファイルを作成します。
保存時のファイル名は、Designer で作成したフォーム定義ファイル(拡張子.xml)の拡張子を除いたファイル名と同じにし、拡張子を .csv とします。
2. データベース参照定義ファイルを FormPat のフォームフォルダにコピーします。
標準インストールでは、フォームフォルダのパスは C:\¥FormPatData¥form¥ です。
フォームフォルダのパスは、システム環境ファイル(control.xml)に設定されています。
3. FormPat を実行し、フォーム入力画面で[計算]ボタンまたは[F9]キーでデータベースが参照

されることを確認してください。

留意点

データベース参照定義ファイルの記述内に半角空白を使用することは禁止されています。
ただし、SQL 文の構文では使用可能です。

FormPat のデータベース参照では、ワークテーブル作成記述とデータ参照記述それぞれに WHERE 句を記述できます。パフォーマンスを考慮した効果的な使用法は以下の通りです。

- ・ワークテーブル作成時にデータ参照に必要なデータを抽出する。
- ・ワークテーブル作成回数を減らす。